

令和8年度 東浦高等学校 学校評価

本年度の 重点目標	社会に出た時に愛される人間を育成する (1) あいさつをさせる (2) 時間を守らせる (3) 決められたものを期日までに必ず出させる		
分掌	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務部	PTA 行事の活性化	役員会・委員会で慎重に企画、検討を行う。各種研修会、講演会への参加者を増やす。案内が保護者の手元に確実に届くようにする。	引き続き精選を続けていく必要がある。相互のコミュニケーションが引き続いての課題である。
	学校行事の円滑な運営	行事開催に向けて、早い段階から分掌、学年への調整をはかる。生徒に自分達の行事・式典であることを自覚させる。	良いものは受け継ぎつつ、変えるべきものは時代に合ったより良い形へと磨き上げていく努力と工夫が、今後も求められる。
教務部	カリキュラム・マネジメントの促進	各教科、分掌、学年でPDCAサイクルを回し、学校改善をすすめる中で、今後の学校のあるべき姿を考える。	分掌業務の遂行に係る職員研修を実施し、業務効率化の重要性を職員に周知した。さらなる学校改善に取り組みたい。
	授業改善	主体的・対話的で深い学びを意識した授業をどの教科でも行う機会を増やすために、公開授業時に、それを踏まえた研究授業を行う。	公開授業を通じて様々な授業方法を共有する機会を設けた。ICTを用いた授業づくりを中心にさらなる授業改善を促したい。
	授業時間確保	学校の根幹は授業であることを認識する。授業時間確保のために学校全体の教育活動を精選する。	以前に比べて生徒の欠席数が大幅に増えたことで、授業進捗と個別対応の両立が難しくなっている。ICTを活用した途切れのない教育活動を推進したい。
生徒指導部	生徒の将来を考えた身だしなみ指導・マナー指導	昨年度までの指導を継続していく。生徒の内面からの規範意識を高めるために、教員と生徒が向き合える関係づくりのための機会や時間を確保する。	校内では比較的しっかりとした身だしなみをしているが、校外での意識はまだ低い。なぜ、きちんと着こなさないといけないか根気強く指導していきたい。
	いじめ未然防止の強化とSNSに対する指導の強化	面談とアンケートを適切な時期に実施する。SNSに対する正確な知識と危険性について指導を強化する。	SNS講話を年度当初に行うことで、SNSの危険性に触れることはできたが、それでもSNS関連のトラブルは件数が減らなかった。家庭との連携を図りながら取り組んでいきたい。
進路指導部	入学試験、就職試験における環境変化への対応	入試環境の変化に対応した情報提供を行い、主体的に進路実現に取り組む姿勢を育てる。	進路情報提供の方法や環境の整備により一層努め、進路意識の向上と学力伸長を図る。
		キャリア教育、就職指導の充実を図り、社会環境の変化に対応できる就職指導を行う。	生徒自身が自己理解と職業研究を深め、ミスマッチのない選択ができるよう指導する。
		進路行事や総合探究の実施方法について検討し、進路指導体制の改善を図る。	従来のある行事の実績を生かしつつ、新しい手立てを検討し、適宜改善を加える。
保健厚生部	心身の健康維持と環境美化に対する意識の向上	教育相談の専門性を高めるとともに、SCやSSWの有効活用を行い、教育相談体制の充実を整える。	関連する他分掌、各学年との情報共有を密にし、SCやSSWの活用を円滑にするなど、教育相談体制を整えることができた。適宜、委員会を開き、対応における協議を重ねることで専門性の向上にもつながった。
		健康で安全な学習環境を自ら作り上げる態度を養う。	健康に関する時事問題（熱中症、感染症等）を適宜発信し、教育活動全般において関連を図ることで、主体的に健康の保持増進に努める生徒が増えた。
特別活動部	主体性を持って生徒会活動や部活動、ボランティア活動に積極的に取り組む意識を作る。	生徒会が主体的に取り組むことのできる学校行事にするため、支援や指導を行う。部活動のさらなる活性化のための支援や、ボランティア活動に積極的に取り組む意識が高まるような指導を行う。	生徒会の生徒たちは行事において準備や運営を積極的に行動できていた。毎年のことになるが、生徒会活動をうまく引き継いでいくのが課題である。部活動も前向きに頑張る生徒が多い中、昨今の物価高騰に対して各部活動費の増額ができていないことが課題である。また、定員割れが続き教員の定数が減る可能性が高い中、精選の必要性が必要になってきている。部活動の精選もボランティア活動も積極的に参加する生徒が増えているので継続していきたい。

学校関係者評価を実施する 主な評価項目	<ol style="list-style-type: none">1 学校全体の取り組みとしてとして、確かな学力・粘り強い生徒の育成を図る。2 学習・進路・生徒指導の取り組みとして、組織的な指導方法・指導体制の工夫を行う。3 公開授業を活用して、授業改善に努める。4 地域連携として、保護者・地域・町内の中学校・小学校との連携を今以上に強化する。5 学校いじめ防止基本方針に基づいて、いじめのない学校を実現する。6 教員の働き方改革を進め、生徒に向き合える時間を確保していく。7 愛知県立学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則・方針に基づき、校等時間を客観的に把握し、時間外在校時間の上限（1 か月 45 時間、1 年 360 時間）が遵守できるよう業務改善・分担の見直し等を行う。
------------------------	--